

## 河川書の探求(1)

### 土佐藩家老野中兼山の栄光と挫折

古賀邦雄 (古賀河川図書館・JRRN 会員)

早明浦ダムから吉野川沿いに 3 キロ程下った帰全山公園 (高知県本山町) に、野中兼山像が建立されている。二本差しに、左手に地図を持ちながら工事の陣頭指揮をとっている。その姿は吉野川を見下ろしているかのようである。

兼山は元和元(1615)年～寛文 3(1663)年の江戸前期の政治家、儒学者である。土佐藩家老として二代藩主山内忠義に仕え、藩財政確立のため、治水や港湾改修、殖産興業を図った。

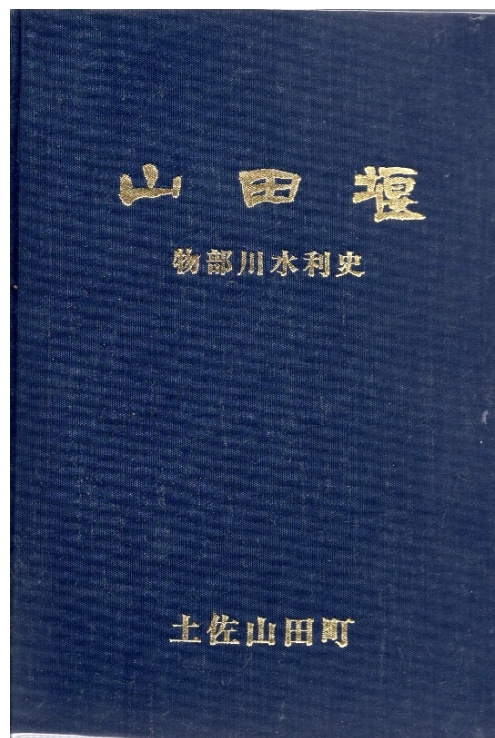


特に、兼山の業績は①吉野川流域での宮古野溝、下津野溝、行川溝の開削②物部川流域では灌漑用水として父養寺井、山田上井、山田中井、野市上井、舟運として舟入川、大津川の開削。山田堰は寛永 16(1639)年に着工、完成は兼山没後であり、25 年の歳月を要した。山田堰は弯曲斜め堰であったが、昭和 48 年に上流 800 メートル地点に合口堰が築造され、昭和 57 年一部を残して撤去された。

山田堰記録保存調査委員会編『山田堰－物部川水利

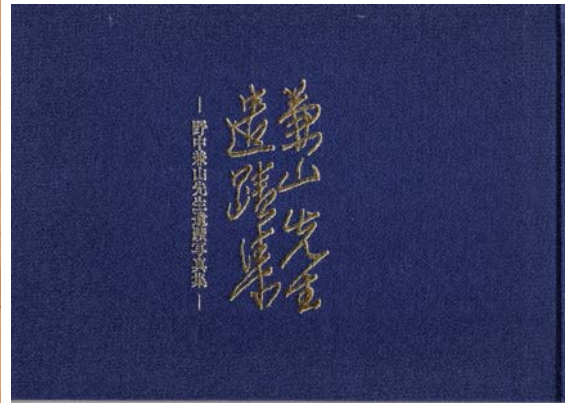
史－』(土佐山田町・昭和 59 年)に刊行されている。③仁淀川流域では八田堰、鎌田堰、四万十川流域では後川のカイロク堰、麻生堰、松田川流域では河戸堰の築造。④築港として、津呂港、空津港の開鑿、柏島港の突堤、浦戸港の波止めを行い、漁民保護海運の安全を図った。⑤産業奨励として養蜂業、陶器工業を興し、捕鯨組織、苗木配布の山林制度を制定した。

しかしながら兼山の施策は独裁的、強権的だと藩内から反感を買ひ、失脚、蟄居させられ 49 歳で急死した。兼山の功績があまりにも秀抜していたためか、江戸幕府が兼山を恐れ、その失脚には幕府がなんらかのかたちで関与したものと考えられる。



大原富枝著の小説『婉という女』(講談社・昭和 46 年)は、「今日、安東家からお使者が見え、幕府からの赦免上を受けた。お使者の帰ったあと、母上を中に、乳母、姉上、妹と相擁して泣いた。」と始まる。兼山の遺族達が宿毛に幽閉され、野中家の男達が途絶える。婉は兼山の娘。婉を女優岩下志麻が演じる。

兼山の伝記ものとして、次の書がある。



松野尾儀行著『南海之偉業 野中兼山一代記』(開成社・明治 26 年)。辻重忠・小関豊吉著『偉人野中兼山』(富士房・明治 44 年)。川添陽著『野中兼山』(高知県教育会・昭和 10 年)、同『烈女野中婉子の話』(高知県教育会・昭和 11 年)。松澤卓郎著『野中兼山』(大日本雄弁会講談社・昭和 16 年)。吉田喜市郎著『野中兼山良継』(神田書房・昭和 18 年)。田岡典夫著『小説野中兼山(上・中・下)』(平凡社・昭和 53 年～昭和 54 年)。海内院元吉著『山内侍兼山』(共生出版・平成 7 年)。

兼山の写真集として、寺田正写真『兼山』(寺田正写真集刊行会・平成 5 年)があり、濱田晃僖写真『兼山先生遺蹟集』(濱田直子・平成 5 年)は、山田堰、八田堰などを昭和 17 年から昭和 19 年にかけて写したもので貴重な資料であるといえる。

この書のダイジェスト版として青空編集室編・発行『執政野中兼山の偉業』(平成 9 年)が発行されている。兼山の資料として、高知県教育委員会編・発行『野中兼山関係文書』(昭和 40 年)、平尾道雄編『野中兼とその時代』(高知県文教協会・昭和 45 年)、神谷正司著『時代と野中兼山論』(山内家史料刊行委員会・昭和 56 年)、横川末吉著『野中兼山』(吉川弘文館・平成 2 年)がある。

野中兼山は、上杉鷹山、熊沢蕃山と並び天下の三山と称えられている。

<四国には生きた川あり花遍路> (石黒紀夫)

